

くすふれ愛だより

2月号

【編集発行】
 玖珠地区コミュニティ
 運営協議会
<http://www.kusu-community.jp/>
 【事務局】
 くすふれあいホール
 (玖珠自治会館)
 72-1511

無病息災を祈願して…

「どんど焼き」

今年も各地区で「どんど焼き」が行われました。これは、小正月（1月15日）に行われる火祭りです。正月に使ったしめ縄やしめ飾り、神札などを持ち寄って燃やし、その火にあたり餅を焼いて食べるなどして、無病息災を願う日本の伝統的な行事です。

町内各地区

どんど焼きの様子

◆ 塚脇どんど焼き ◆

1月14日(木)、組み立てられたやぐらは年男年女によって点火され、パチパチと大きな音をたてながら燃え上がりました。

また会場では、実行委員会が用意したぜんざいや豚汁・焼き鳥・かつぼ酒が振舞われ、「体が温まった」と参加者に喜ばれていました。



神職による祭儀



燃え上がるやぐら



年男年女による点火作業

◆ 鎗水「俵投げ」 ◆

「秋穂から来た福俵、どうかどつきり祝うちよくれ」。子ども達の元気な声が玄関に響く。ここは、小正月の前夜、伝統行事の「俵投げ」を行っている大隈 鎗水地区。昔は、昼間に子ども達が集落内を巡回し「わらぼて」で庭先の地面をたたきモグラを追い払う「もぐら打ち」を、夜には青年たちが家内安全や五穀豊穡を願う「俵投げ」を行っていた。時代の流れと共に、いつしか双方の行事が消滅したが、約30年前、当時の子供会に俵

のぜんざいをいただき、今年の無病息災を祈願しました。



俵をナイスキャッチ！

◆ 寺村どんど焼き ◆

寺村地区では、30年以上を数えるどんど焼きが1月17日(日) 10時よりあり、やぐらは天空高く火柱をあげました。「どんどの火にあれば、その年を元気で無事に過ごせる」とや「どんどの火で焼いた団子を食べると虫歯にならない」などのいわれがあります。

火で温まりながら、振る舞



老若男女約40人の祈願の様子